

教科	国語	科目	論理国語	単位数	3
学年	3年	類型	流通経済科・情報ビジネス科・地域ビジネス科・商業科		
教科書(出版社)	新編 論理国語(東京書籍)				
副教材(出版社)	新編 論理国語学習課題ノート・小説三選付属版(東京書籍)				
授業の概要	1 講義やグループ活動を通して、論理的な文章や実用的な文章の読み方を学ぶ。 2 論点を整理して読み、自分の考えを深めて論述したり討論したりする。				
授業の目標	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付け、論理的・批判的に考える力、創造的に考える力を伸ばす。				
年間 学習 計画	学習内容(単元・項目)		学習目標		
	1 学期	1 時代をひらく ・最初のペンギン ・豊かさと生物多様性 ・考える楽しみ②	<ul style="list-style-type: none"> ・タイトルに象徴させる筆者の考えを手がかりにして自分の生き方について考える。 ・論の展開に注意して読み、生物多様性の重要性と課題について理解を深める。 ・現代における真の価値の探究について理解する。 		
		2 新しい視点から ・カフェの開店準備 ・言葉の扉③	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の何気ない光景から広がっていく筆者の思考を手がかりにして、自分の日常を見つめ直す。 ・紛らわしい漢字について理解する。 		
		3 科学と人間 ・ロボットが隣人になるとき ・言葉の扉④	<ul style="list-style-type: none"> ・哲学的な思考に沿って書かれた評論を読み、人間の意志や自由について理解を深める。 ・的確な表現の仕方について理解する。 		
	2 学期	4 豊かな認識 ・科学的「発見」とは ・図表の読み取り方	<ul style="list-style-type: none"> ・本文中の二つの課題を迫体験して読み、科学的視点の持ち方とその意義を理解する。 ・図表の読み方を理解し、情報を適切に読み取れるようにする。 		
		5 知のゆくえ ・もう一つの知性 6 明日をみつめて ・ホンモノのおカネの作り方 ・やさしい日本語	<ul style="list-style-type: none"> ・科学的思考とは異なる思考の在り方を理解し、現代社会を生きるうえで必要な態度について考える。 ・二つの例の対比に注意して論旨をたどり、貨幣の持つ不思議さについて理解を深める。 ・資料を読んで「やさしい日本語」について理解し、実用的な文章の分かりやすさについて考える。 		
3 学期	・未来のありか ・考える楽しみ③	<ul style="list-style-type: none"> ・小見出しを参考に各部分の内容と関係を読み取り、未来とは何かについて考える。 ・困難な時代における読書の役割について考える。 			
観点別 評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにしているか。	論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしているか。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養っているか。		
備考	各学期の定期考査までの学習のまとめごとに、3つの観点をABCの3段階で評価し、100点法を用いて評価する。また、学年末の評価は、各学期の評価を平均し総合的に評価する。				

教科	国語	科目	古典探究	単位数	3
学年	3年	類型	商業科		
教科書(出版社)	古典探究(文英堂)				
副教材(出版社)	古典探究準拠ワーク古文編・漢文編(文英堂)				
授業の概要	1 音読やグループ活動を取り入れ、基礎知識の定着と読解の深化を図る。 2 古文単語や文法などの小テストを適宜行う。				
授業の目標	1 古典の作品を読むために必要な力を身に付け、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深める。 2 先人のものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、言葉を通して他者や社会と関わり、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。				
年 間 学 習 計 画	学習内容(単元・項目)		学習目標		
	1 学 期	1 古文を味わう ・夢を買ふ人の事	・当時と現代の夢に対する認識の相違を探る。		
		2 先人の世界を理解する ・宮に初めて参りたるころ ・嘆きつつ	・登場人物の心情を読み取り、理解するとともに、なぜそのような記述がなされているのかを考える。 ・和歌のやりとりから詠者の心情を想像し、その変化を読み取る。		
		3 ものの伝え方を読み解く ・道真の左遷 ・南院の競射	・歴史上の人物でもある登場人物の心情を読み取る。 ・歴史物語としての特徴と登場人物の描かれ方の特徴を理解する。		
		4 漢文を味わう ・先従隗始 ・探究の扉 遠慮	・出典を読むことで故事成語の意味を正しく理解し、漢文の文体や表現について学ぶ。		
		5 人間関係を読み解く ・死諸葛走生仲達 ・探究の扉 三国の戦い由来の故事成語	・登場人物の考え方・心情を把握し、人間の生き方について考察する。 ・中国の史話に由来する故事成語について理解を深める。		
	2 学 期	1 人の生き方を読み取る ・須磨	・長編物語としての構成を理解するとともに、登場人物の心情や表現の効果について理解する。		
		2 自分の生き方を考える ・去来抄	・発句の一字一句の違いがもたらす表現効果について考える。		
		3 多様な考え方を学ぶ ・老子 莊子 韓非子 ・参考 科学者のこころ 湯川秀樹	・諸子百家に関する基礎知識を整理し、人生や社会に対する考え方について理解する。 ・科学者の視点から中国の思想について述べられた文章を読み、ものの見方や感じ方を広げる。		
4 見方・考え方を深める ・無名抄 深草の里 ・玉勝間 兼好法師が詞のあげつらひ		・和歌における余情・幽玄について理解する。 ・兼好の考えとそれに対する作者の批判を読み取る。			
3 学 期	1 古典に対する考えを深める ・須佐之男命の大蛇退治	・上代の文学としての特徴を理解し、上代の人のものの見方、考え方について触れる。			
	2 社会との関わりを考える ・帰去来辞	・時代背景や経歴を踏まえて作者の主張を把握する。			
観 点 別 評 価	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度		
	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めようとしているか。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通して先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしようとしているか。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ、自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養っているか。		
備考	各学期の定期考査までの学習のまとめごとに、3つの観点をABCの3段階で評価し、100点法を用いて評価する。また、学年末の評価は、各学期の評価を平均し総合的に評価する。				

教科	地理歴史	科目	地理探究	単位数	3
学年	3年	類型	商業科		
教科書(出版社)	新詳 地理探究(帝国書院)				
副教材(出版社)	地理統計要覧(二宮書店)				
授業の概要	理総合の学習によって身に付けた資質・能力を基に、系統地理的な考察、地誌的な考察によって習得した知識や概念を活用して、現代世界に求められるこれからの日本の国土像を探究する。				
授業の目標	社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成する。				
年間 学習 計画	学習内容(単元・項目)		学習目標		
	1 学期	第1部 現代世界の系統地理的考察 第1章 自然環境 第2章 資源と産業	<ul style="list-style-type: none"> 地形、気候、生態系などに関わる諸事象の空間的な規則性、傾向性や、地球環境問題の現状や要因、解決に向けた取り組みなどについて理解する。 資源・エネルギーや農業、工業などに関わる諸事象の結びつきなどに着目して、主題を設定し、それらに関連する地球的課題の要因や動向などを多面的に考察し、表現する。 資源、産業について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとする。 		
	2 学期	第3章 交通・通信と観光、貿易 第4章 人口、村落・都市 第5章 生活文化、民族・宗教 第2部 現代世界の地誌的考察 第1章 現代世界の地域区分 第2章 現代世界の諸地域	<ul style="list-style-type: none"> 交通・通信網と物流や人の移動に関する運輸、観光などに関わる諸事象の空間的な規則性、傾向性や、交通・通信、観光に関わる問題の現状や要因、解決に向けた取り組みなどについて理解する。 世界や世界の諸地域の地域区分について、地域の共通点や差異、分布などに着目して、主題を設定し、地域のとらえ方などを多面的・多角的に考察し、表現する。 現代世界の諸地域について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとする。 		
	3 学期	第3部 現代世界におけるこれからの日本の国土像 第1章 持続可能な国土像の探究	<ul style="list-style-type: none"> 地域の結びつき、構造や変容、持続可能な社会づくりなどに着目して、主題を設定し、我が国が抱える地理的な諸課題の解決の方向性や将来の国土の在り方などを多面的・多角的に探究し、表現する。 持続可能な国土像の探究について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に探究しようとする。 		
観点別 評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
	地形、気候、生態系などの規則性や、地球環境問題の現状や要因、解決に向けた取り組みなどについて理解する。 諸地域にみられる地域的特色や地球的課題などについて理解する。	場所の特徴や自然および社会的条件との関わりなどに着目して、主題を設定し、地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し、表現できる。 現代世界の諸地域について、地域的特色や地球的課題などを多面的・多角的に考察し、表現する。	現代世界の諸地域について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとする。 持続可能な国土像の探究について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に探究しようとする。		
備考	学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。				

教科	地理歴史	科目	日本史探究	単位数	3
学年	3年	類型	商業科		
教科書(出版社)	日本史探究 詳説日本史(山川出版社)				
副教材(出版社)	要点整理ゼミナール日本史(浜島書店)				
授業の概要	日本の歴史を原始・古代から近現代にわたって概観し、歴史的背景や展開、歴史的意義の理解を図る。				
授業の目標	我が国の歴史の展開を、世界的視野に立って総合的に考察させ、我が国の文化と伝統の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を養い、国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者としての資質を養う。				
年間 学習 計画	学習内容(単元・項目)		学習目標		
	1 学期	第Ⅰ部原始・古代 1 日本文化のあけぼの 2 古墳とヤマト政権 3 律令国家の形成 4 貴族政治の展開 第Ⅱ部中世 5 院政と武士の躍進 6 武家政権の成立 7 武家社会の成長	以下の項目について、古代国家の成立と東アジア情勢、中世封建社会の特色を理解する。 ・東アジア情勢の変化と古代政権の成立過程を理解する。 ・古墳文化、律令体制の成立過程を理解する。 ・貴族政治の展開、地方政治の変化や武士の出現などを基に、律令体制の変容を理解する。 ・土地支配の変容と政治・社会体制の変化を理解する。 ・武家政権の成立と展開、東アジアの国際情勢の変化を理解する。		
	2 学期	第Ⅲ部近世 8 近世の幕開け 9 幕藩体制の成立と展開 10 幕藩体制の動揺 第Ⅳ部近代・現代 11 近世から近代へ 12 近代国家の成立 13 近代国家の展開 14 近代の産業と生活 15 恐慌と第二次世界大戦	以下の項目について、近世封建社会の成立と展開、国際情勢の変化の中で近現代史を理解する。 ・江戸幕府の成立・展開を通して幕藩体制を理解する。 ・近世社会の変容を通して幕藩体制の動揺を理解する。 ・開国と幕末の動乱の推移を理解する。 ・明治維新の意義と帝国憲法の特徴を理解し、東アジア情勢を考察する。 ・資本主義社会の成立と発展を理解する。 ・2度の世界大戦を通じて、日本が国際社会に及ぼした影響を理解する。		
	3 学期	16 占領下の日本 17 高度成長の時代 18 激動する世界と日本	・戦後民主化の過程を理解する。 ・長期保守政権の成立と国際関係について理解する。 ・今日の国際情勢の激変の中での日本の国際的役割を理解する。		
観点別 評価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	日本の歴史について基本的な知識を身に付け、諸資料を収集して有用な情報を選択して活用することを通し、歴史的事象を追究する方法を身に付ける。		日本史の事象から歴史的な課題を見出し、諸資料などを活用して、文化の多様性と現代社会の特質を多面的・多角的に考察するとともに、公正に判断する。		日本史への関心と課題意識を深め、意欲的に追究しながら、国際社会に主体的に生きようとする資質を養う。
備考	学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。				

教科	公民	科目	政治・経済	単位数	2
学年	3年	類型	流通経済科・情報ビジネス科・商業科		
教科書(出版社)	高等学校 政治・経済 (第一学習社)				
副教材(出版社)	最新 政治・経済資料集 2024 (第一学習社)				
授業の概要	教科書に沿って、本文の内容を理解し、議論する。概論だけでなく、諸課題へのアプローチを扱いながら現代社会の諸課題を深く学ぶ。				
授業の目標	社会のあり方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通じて、広い視野に立ち、社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。				
年間 学習 計画	学習内容(単元・項目)		学習目標		
	1 学期	第1編 現代日本の政治・経済の諸課題 第1章 現代日本の政治と経済 第1節 日本国憲法と現代政治のあり方 第2節 望ましい政治のあり方と主権者としての政治参加のあり方	<ul style="list-style-type: none"> 政治や政治権力の意味とその役割について理解する。 よりよい民主政治のあり方について、多面的・多角的に考察し、表現することができる。 「日本国憲法と現代政治のあり方」や「望ましい政治のあり方と主権者としての政治参加のあり方」について、多面的・多角的に考察、構想し、表現するとともに、よりよい社会の実現を視野に、現代政治の諸課題を主体的に解決しようとする姿勢を身に付ける。 		
	2 学期	第3節 市場経済の機能と限界 第4節 持続可能な財政および租税のあり方 第5節 金融を通じた経済活動の活性化 第6節 経済活動と福祉の向上 第2章 現代日本の諸課題の探究 選択1 産業構造の変化と起業 選択2 防災と安全・安心な社会の実現	<ul style="list-style-type: none"> 経済の役割と、市場経済における人々の選択について、理解する。 金融のはたらきと金融機関の役割について、理解する。 社会的な見方・考え方を総合的に働かせ、他者と協働して持続可能な社会の形成が求められる現代日本社会の諸課題を探究する活動を通して、課題の解決に向けて政治と経済とを関連させて多面的・多角的に考察、構想し、よりよい社会のあり方についての自分の考えを説明、論述する。 		
	3 学期	第2編 グローバル化する国際社会の諸課題 第1章 現代の国際政治・経済 第2章 国際社会の諸課題の探究	<ul style="list-style-type: none"> 諸課題の探究にあたって、国際社会の動向に着目したり、諸外国における取り組みや、国際連合における持続可能な開発のための取り組みなどを参考にしたりして、諸課題を主体的に解決し、合意形成や社会参画に向かおうとする姿勢を身に付ける。 		
観点別 評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
	社会のあり方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会のあり方に関わる情報を適切かつ効果的に調べることができる。	国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や実現可能性などを指標にして議論し、公正に判断することができる。	よりよい社会の実現を視野に、国家及び社会の担い手として、現代の諸課題を主体的に解決しようとする。		
備考	学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。				

教科	数 学	科 目	数学探究	単位数	2
学 年	3 年	類 型	情報ビジネス科・商業科		
教科書(出版社)	数学探究テキスト(松山商業高等学校)				
副教材(出版社)					
授業の概要	数と式、整数の性質、2次関数、図形と計量、場合の数と確率、データの分析で、1・2年生の全復習から応用まで学習する。				
授業の目標	1・2年次に既習した内容について総復習をするとともに、基礎的な知識や技能を身に付ける。また、それらを的確に応用する能力を伸ばし、数学的な見方や考え方のよさを認識できるようになる。				
年 間 学 習 計 画	学習内容(単元・項目)		学 習 目 標		
	1 学 期	1章 1節 数と式 2節 整数の性質	<ul style="list-style-type: none"> ・整式についての加法、減法、乗法の計算及び展開公式 ・因数分解公式を自在に使いこなせるようになる。不等式の性質を理解すると共に、1次不等式・2次不等式の解き方を修得する。 ・最大公約数、最小公倍数の性質から互除法の使い方を復習する。さらに、不定方程式の解を見つけられるようにする。n進数の性質を復習し、応用問題にチャレンジする。 		
	2 学 期	2章 2次関数 3章 図形の計量と図形の性質 1節 三角比 4章 場合の数と確率	<ul style="list-style-type: none"> ・2次関数のグラフを式変形し、2次関数の最大・最小を理解し、具体的な問題に応用できるようになる。2次関数のグラフと2次方程式の関係を理解し、2次方程式の解を求める様々な方法についての技能を修得すると共に、2次不等式を解けるようになる。 ・座標を用いた鈍角の三角比の求め方を理解する。一般の三角形の辺と角との間に成立する三角形の面積の公式と、正弦定理、余弦定理を理解し、活用できるようになる。 ・確率の基本定理を理解し、応用できるようになる。特に具体例を通して、条件つき確率と独立試行の定理の考え方を理解する。 		
	3 学 期	5章 データの分析 1節 データの整理と分析 2節 データの相関	<ul style="list-style-type: none"> ・データを整理する必要性を理解し、度数分布表、ヒストグラム、相対度数、箱ひげ図、相関係数を知る。 		
観 点 別 評 価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	1・2年生の既習事項の基本的な概念、原理・法則、用語・記号などの基礎的な知識を身に付けているか。事象を数学的に考察し、表現し処理する仕方や推論の方法を身に付けているか。		事象を数学的にとらえ、論理的に考えるとともに思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えられるか。基礎的な知識・技能を利用し、発展的な問題を解決するための判断・表現ができるか。		数学のよさを認識し、数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度を身に付けているか。
備 考	学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。				

教科	理科	科目	地学基礎	単位数	2
学年	3年	類型	流通経済科・情報ビジネス科・商業科		
教科書(出版社)	地学基礎(数研出版)				
副教材(出版社)	リト Light ノート地学基礎(数研出版)、リト α 地学基礎(数研出版)				
授業の概要	地球がプレートの運動や太陽の放射エネルギーによって変動してきたこと、宇宙と惑星としての地球の特徴、地球環境と人間生活とのかかわりについて学習する。				
授業の目標	日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、地学的に探求する能力と態度を育てるとともに、地学の基本的な概念や原理法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。				
年間 学習 計画 画	学習内容(単元・項目)		学習目標		
	1 学期	第1編 活動する地球 第1章 地球の構造 第2章 プレートの運動 第3章 地震と地殻変動 第4章 火山 第2編 移り変わる地球 第1章 地層の形成 第2章 古生物の変遷と地球環境	<ul style="list-style-type: none"> 地球の形・大きさの測定の仕方や構造などについて、スケールも含めて理解する。 プレートの運動について学び、火山活動と地震活動が総合的に一つの仮説にまとめられることを理解する。 地震の性質と地殻変動について理解を深める。 火山活動と、その結果として形成される岩石について学ぶ。 太陽エネルギーと重力がどのように地形の変化や堆積作用にかかわっているかを学ぶ。 地球と生命の関係の理解を深める。 		
	2 学期	第3編 大気と海洋 第1章 地球の熱収支 第2章 大気と海水の運動 第4編 地球の環境 第1章 地球の環境と日本の自然環境 第5編 太陽系と宇宙 第1章 太陽系と太陽探求活動	<ul style="list-style-type: none"> 大気圏の構造と、地球の熱収支について理解する。 海洋も大気の運動と同じように熱収支のバランスにとって重要であることを理解する。 時間スケールの大きな現象を考える場合は、全地球的にとらえることが必要であることを理解する。 日本の自然環境の特徴と、そこで起こる災害を理解する。 太陽のエネルギー源や構造、太陽の活動のようすなどについて学ぶ。また、恒星の進化の過程や時間的なスケールを理解する。 		
	3 学期	第2章 宇宙の誕生	<ul style="list-style-type: none"> 太陽系の天体に関して、系統的に学習し、理解を深める。 ビッグバンによる宇宙の誕生を理解し、宇宙の構造を知る。 		
観点別 評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
	学習内容について理解を深めることができる。 観察実験で得られたデータをもとにして関連する知識を整理できる。	簡単な仮説をあげ、その処理実験と対照実験を考えることができる。 実験計画に沿った観察・実験の実行と結果の整理ができる。	身近な自然事象について興味と関心をもちながら、積極的な態度で授業に取り組むことができる。		
備考	学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。				

教科	保健体育		科目	体育		単位数	3	
学年	3年		類型	流通経済科・情報ビジネス科・地域ビジネス科・商業科				
教科書(出版社)	現代高等保健体育 改訂版(大修館書店)							
副教材(出版社)	現代高等保健体育ノート 改訂版(大修館書店)							
授業の概要	心と体のバランスを整えながら、自分の体力や体調に合わせた授業への参加を実践できるようにします。自分や仲間の健康・安全を確保した活動の中で、それぞれの課題を見つけてその解決に取り組み、技能の習得段階に応じた内容の練習や試合を考えながら進めていきます。また、公正や協力、責任などの態度の育成を目指し、生涯にわたってスポーツに親しむ態度を育成します。							
授業の目標	1 各種の運動の合理的・計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わいながら、さまざまな技能が身に付けられるようにします。 2 運動における競争や協働の意味を正しく理解し、自己や仲間の課題を解決していくために必要な態度や能力を養います。 3 健康や安全を確保し、継続して運動に親しむことができるようにします。							
年間 学習 計画	学習内容(単元・項目)			学習目標				
	1 学期	1 体づくり運動 各種体操、集団行動、補強運動及び長距離走など 2 選択Ⅰ バドミントン、テニス、卓球及び柔道から1つ選択		<ul style="list-style-type: none"> 自分の体力や体調に合わせた運動を継続して行います。 基本的な集団行動を学び、日常生活の中に役立てていきます。 仲間と協力したウォーミングアップを通して、体や心の状態に気づきます。 基本的な用具の操作やボール操作を身に付けます。 自分たちのレベルに合わせたルールを考えながら、仲間と協力して簡易ゲームで勝敗を競います。 技の名称や使い方を覚え、基本的な技を使った攻防をできるようにします。 健康・安全を確保して活動します。 豊かなスポーツライフの設計について学びます。 				
	2 学期	4 選択Ⅱ ソフトボール、バレーボール及びハンドボールから1つ選択 5 選択Ⅲ サッカー及びバスケットボールから1つ選択		<ul style="list-style-type: none"> 基本的な用具の操作やボール操作を身に付けます。 自分たちのレベルに合わせたルールを考えながら、仲間と協力して簡易ゲームで勝敗を競います。 作戦や状況に応じた技能で仲間と連携してゲームを展開します。 健康・安全を確保して活動します。 				
	3 学期	6 体育理論Ⅱ 7 球技選択Ⅲの続き		<ul style="list-style-type: none"> 豊かなスポーツライフの設計について学びます。 個人技能や集団的技能の程度に応じてゲームができるようになります。 各技能を発揮し、攻撃と防御を展開し、勝敗を争うことの中から作戦を立て、工夫をすることの楽しさや喜びを味わい、生涯スポーツに生かします。 				
観点別 評価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度			
	運動の楽しさや喜びを深く味わうために自ら進んで運動しようとしている。 公正・協力・責任などの社会的態度が身に付いている。		自分や仲間の体力や学習段階に応じた課題を見つけ出している。 課題解決を目指し、工夫している。 自分やチームで考えたことを他者に伝えることができる。		体づくり運動の行い方や、さまざまな運動の技能、ゲームの進め方が身に付いている。 自分や仲間の健康・安全を守るための知識を理解し、実践している。			
備考	学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。							

教科	外国語	科目	英語コミュニケーションⅢ	単位数	4
学年	3年	類型	商業科		
教科書(出版社)	BIG DIPPER English CommunicationⅢ (数研出版)				
副教材(出版社)	UNITE 3 (数研出版) 英単語ターゲット1400 (旺文社) パワーマックス英語リーディング (Z会) パワーマックス英語リスニング (Z会)				
授業の概要	1 予習では、単語やイディオムの意味を辞書で調べて、本文の内容を把握する。 2 予習で分からなかった箇所は、授業の説明を聞いて、ノートを整理する。 3 ペアワークやグループワークなどの言語活動を通して、英語を使う機会を増やす。				
授業の目標	1 積極的に英語に触れ、コミュニケーションを図ろうとする態度を養う。 2 英語を聞いたり読んだりして理解したことに加えて、本文内容に関する情報や自分の考えなどを整理して伝える力を養う。				
年 間 学 習 計 画	学習内容(単元・項目)		学習目標		
	1 学 期	Lesson1 Is the Meat Real or Fake? Lesson2 Let's Have a Healthy Workout Lesson3 My Opinion of Zoos Lesson4 The history of Ekiben Lesson5 Three Tips for Maintaining a Conversation Lesson6 The History of Recorded Music Lesson7 Online Word-of-Mouth Lesson8 After the Flowers Lesson9 Hot Springs at Home and Abroad Lesson10 Kintsugi Lesson11 Art on Display Lesson12 Can You Manage Your Anger?	<ul style="list-style-type: none"> 既習の文法事項を復習しながら、つなぎ語を意識し、代替肉、筋トレ、駅弁などのユニークな題材の短い英文を読み、必要な情報を的確につかみ、意見を伝え合う。 学習内容は、例示、追加、列挙、対比などの表現や、討論でよく使う表現、言い換え表現などである。 		
	2 学 期	Lesson13 Crowdfunding Lesson14 A New Orchestra and a New Harmony Lesson15 Instant Replay in Sports Lesson16 Endangered Languages Lesson17 Is This the Right Way to Protect the Environment? Lesson18 The Shoe That Grows Lesson19 Fake News Lesson20 Human Society and Infectious Diseases Lesson21 Having a Discussion	<ul style="list-style-type: none"> 文章全体の構成を意識して、経済、環境、教育・社会問題、メディア・倫理など様々なジャンルのやや長めの文章を読み、必要な情報を的確につかむ。また、その情報をもとに適切な自己表現活動を行う。 学習内容は、ディスカッションの注意点、新聞記事の読み方や譲歩の表現などである。 		
	3 学 期	Lesson22 Writing a Summary Lesson23 Question-and-Answer Session Lesson24 Writing a Summary2	<ul style="list-style-type: none"> 様々なジャンルの長めの文章を読み、さらに様々な形式の関連情報を得て考えを深めることで、読解力向上を目指すとともに、より高度な発信活動を行う。 学習内容は、要約文の作り方、プレゼンテーション、リテリングなどである。 		
観 点 別 評 価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	語彙や文法を理解して、本文の内容を読み取る技能を身に付けている。また、本文内容に関する話題について、事実や自分の考えを整理して伝えたり、相手からの質問に答えたりする技能を身に付けている。		本文に関連した話題について、発表や意見交換ができるように、事実や自分の考えを整理してペアで話し合ったり、ある程度まとまった分量の英文を書いたりしている。		本文の内容を読み取り、概要や要点、パラグラフ構成を把握しようとしている。また、学習した語句などを用いて、事実や自分の意見を整理したり、話したり/書いたりしようとしている。
備 考	各学期の定期考査までの学習のまとめりごとに、3つの観点をABCの3段階で評価し、100点法を用いて評価する。また、学年末の評価は、各学期の評価を平均し総合的に評価する。				

教科	外国語	科目	論理・表現Ⅲ	単位数	2
学年	3年	類型	商業科		
教科書(出版社)	MY WAY Logic and ExpressionⅢ(三省堂)				
副教材(出版社)	英文法・語法 Engage (いいずな書店) Engage 準拠問題集 Basic Training Book (いいずな書店)				
授業の概要	1 予習や文法事項の学習、問題演習を通して、コミュニケーションに必要な文法・語法のルールに対する理解を深める。 2 ペアやグループワークなどを通して会話表現に親しむ。また、様々なテーマに対して自分の意見や考えを表現する。				
授業の目標	1 積極的に英語に触れ、コミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 2 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づいて、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える力を養う。				
年間 学習 計画	学習内容(単元・項目)		学習目標		
	1 学期	Lesson1 Survey Results Lesson2 Writing an Email Lesson3 Writing a Blog Lesson4 Describing Activities	<ul style="list-style-type: none"> ・論理・表現Ⅱで既習の文法事項を復習しながら、新出の表現を学習し、異文化理解やeスポーツ、テクノロジー、日本文化などの題材に関する様々な英文から必要な情報を的確につかみ、簡単な自己表現活動を行う。 ・学習のポイントは、現在完了、過去完了、助動詞の表現、助動詞+have+過去分詞、不定詞、知覚動詞、使役動詞などである。 		
	2 学期	Lesson5 Suggesting What to buy Lesson6 Making a proposal Lesson7 Making a speech Lesson8 Writing an invitation	<ul style="list-style-type: none"> ・新出の文法事項や表現を学習しながら、デジタル社会、自然、科学や異文化などの題材に関する様々な英文から必要な情報を的確につかむ。また、その情報をもとに適切な表現活動を行う。 ・学習のポイントは、動名詞、分詞構文、with +O +分詞、比較、関係代名詞、関係副詞、仮定法などである。 		
	3 学期	Lesson9 Suggesting a Solution Lesson10 Taking about the future	<ul style="list-style-type: none"> ・新出の文法事項や表現を学習しながら、共生、平和、SDGs、国際協力、平和などの題材に関する英文から適切に情報を読み取る。読み取った情報を基に、実際のコミュニケーションの場面で使用できる応用的な表現活動を行う。 		
観点別 評価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	学習した英語の音声や語彙、表現、文法などを正しく用いて、クラスでインタビューし合ったり、文章を書いたり、自分の考えを発表したりする技能を身に付けている。		教科書のテーマに沿って、情報・考えの流れや論理に矛盾や飛躍がなく、情報や自分の考えを伝える力を身に付けている。また、内容を整理してクラスで発表したり相手の質問に答えたりしている。		相手のことを知るために、主体的、自立的に相手に質問したり答えたりする態度、また、自分のことを知ってもらうために、自分の気持ちや意見を積極的に伝えようとする態度が身に付いている。
備考	学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。				

教科	家庭	科目	生活産業基礎	単位数	2
学年	3年	類型	地域ビジネス科・商業科		
教科書(出版社)	生活産業基礎(実教出版)				
副教材(出版社)					
授業の概要	「生活産業を学ぶに当たって」「ライフスタイルの変化と生活産業」「ライフスタイルの変化に対応した商品・サービスの提供」「生活産業と職業」「職業生活と自己実現」の5項目で構成しており、体験的な学習を通して専門的な学習への意欲を高め、勤労観、職業観を身に付ける。				
授業の目標	衣食住、ヒューマンサービスなどに関する生活産業や関連する職業を担う職業人としての必要な基礎的な資質・能力を進んで習得し活用する意欲と態度を身に付ける。				
年間 学習 計画	学習内容(単元・項目)		学習目標		
	1 学期	第1章 「生活産業基礎」を学ぶ 第2章 ライフスタイルの変化に対応した商品・サービスの提供 第3章 食生活関連分野	<ul style="list-style-type: none"> 近年の社会の変化と産業構造の変化に伴って、働き方やライフスタイルが多様化していること、人々のニーズの変化を的確に捉えた商品・サービスが提供されていることを理解する。 消費者ニーズを把握するための調査方法や、結果の活用方法を知る。 商品やサービスの企画、開発から販売・提供の仕組みを知り、具体的に商品開発について考える。 外食・中食産業、食品流通業の意義と役割を理解する。 消費者のニーズや消費行動に対応した商品・メニュー開発、販売やサービスの方法に関心を持つ。 様々な資格や職業について興味・関心を持つ。 		
	2 学期	第4章 衣生活関連分野 第5章 住生活関連分野 第6章 ヒューマンサービス関連分野	<ul style="list-style-type: none"> 人々の意識の多様化により、ファッションが多様化していることを理解する。 様々な資格や職業について興味・関心を持つ。 住生活に関わる産業の意義と役割を理解し、人々がライフスタイルや価値観に合った住居を求めていることを具体的な事例を通して理解する。 様々な資格や職業について興味・関心を持つ。 ライフスタイルや価値観の多様化によってヒューマンサービス関連分野に対する需要が高まっている状況を認識し、意義と役割を理解する。 様々な資格や職業について興味・関心を持つ。 		
	3 学期	第7章 なりたい自分になるために	<ul style="list-style-type: none"> 生活産業にかかわる職業人に求められる資質・能力について理解する。 生活産業のスペシャリストとして働くことが自己実現につながっていくことを理解する。 		
観点別 評価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	生活産業の各分野について体系的・系統的に理解していると同時に、関連する技術を身に付けている。		生活産業に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。		よりよい社会の構築を目指して自ら学び、生活の質の向上と社会の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。
備考	学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。				

教科	商業	科目	課題研究	単位数	3
学年	3年	類型	商業科		
教科書(出版社)	課題研究の手引き(松山商業高校)				
副教材(出版社)					
授業の概要	商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、会計情報の提供と活用に必要な資質・能力を育成する。				
授業の目標	1 会計の基礎理論を理解し、実務に応用できる能力を養う。 2 日商簿記2級の試験に合格するための知識・技術を習得する。				
年間 学習 計画 画	学習内容(単元・項目)		学習目標		
	1 学期	1 会計の基礎概念と原則 2 仕訳と総勘定元帳 3 財務諸表の作成 ・貸借対照表の作成方法と解説 ・損益計算書の作成方法と解説 4 資金収支計算書とキャッシュ・フロー計算書 ・資金収支計算書の作成と解説 ・キャッシュ・フロー計算書の作成と解説	・会計の目的と意義を理解し、会計の基本原則を把握する。 ・貸借対照表と損益計算書の作成方法をマスターし、正確に解説できる。 ・資金収支計算書とキャッシュ・フロー計算書の作成方法を理解し、企業の財務状況を把握できる。		
	2 学期	5 財務分析 ・比率分析の方法と解釈 ・財務状態分析の手法 6 特殊取引の会計処理 ・割引計算の仕訳と処理 ・預り金・前受金の取り扱い 7 工業簿記 ・各種原価の計算方法 ・原価計算の方法と意義	・比率分析の手法を習得し、企業の財務状態を分析できる。また、財務状態分析の手法を理解し、適切な判断ができる。 ・割引計算や預り金・前受金の取り扱いを正確に行える。 ・各種原価の計算方法を理解し、正確な原価計算ができる。また、原価計算の方法とその意義を理解し、企業の原価管理に貢献できる。		
	3 学期	8 会社法と税法 ・会社法に基づく会計処理の特徴 ・税法に基づく会計処理の基本原則	・会社法に基づく会計処理の特徴を理解する。また、税法に基づく会計処理の基本原則を理解し、税務申告ができる。		
観点別 評価	知識・技術		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	会計の基本概念や原則について正確に理解している。 実務シナリオに基づいた問題を解決する能力が身に付いている。		問題解決過程や意見の展開において論理的な思考ができている。 複雑な情報を分析し、適切な判断を下す能力が身に付いている。		学習目標を設定し、自己管理能力を発揮して学習に取り組んでいる。 自発的に学習に参加し、責任感を持って課題に取り組んでいる。
備考	学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。				

教科	商業	科目	課題研究	単位数	3
学年	3年	類型	商業科		
教科書(出版社)	課題研究の手引き(松山商業高校)				
副教材(出版社)	ベストフィット 情報I				
授業の概要	情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を養う。				
授業の目標	共通テスト「情報I」を受験科目として選択することを最終目標とし、これからの情報社会で活躍できる人材の育成を目指す。				
年間 学習 計画	学習内容(単元・項目)		学習目標		
	1 学 期	第6章 プログラミング	<ul style="list-style-type: none"> ・アルゴリズムの表し方とプログラムの設計を学習する。 ・基本的なプログラミングを学習する。 ・配列と関数を学習する。 ・探索と整列のプログラムを学習する。 ・プログラムによる動的シミュレーションを学習する。 		
		第1章 情報と社会	<ul style="list-style-type: none"> ・情報社会と問題解決を学習する。 ・情報セキュリティと法規を学習する。 ・知的財産権の扱いを学習する。 ・情報デザインの基礎を学習する。 		
		第2章 情報デザイン	<ul style="list-style-type: none"> ・情報デザインの活用を学習する。 ・デジタル化された情報とその表し方を学習する。 		
	2 学 期	第3章 デジタル	<ul style="list-style-type: none"> ・論理演算を学習する。 ・メディアのデジタル化を学習する。 ・コンピュータの構成と動作を学習する。 ・コンピュータの性能を学習する。 		
		第1章 ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットの仕組みを学習する。 ・様々な情報システムを学習する。 ・情報システムを支えるデータベースを学習する。 ・安全のための対策と技術を学習する。 		
3 学 期	第2章 問題解決	<ul style="list-style-type: none"> ・データ収集と整理を学習する。 ・データの扱いと処理を学習する。 ・モデル化とシミュレーションを学習する。 ・さまざまなシミュレーションを学習する。 			
	問題演習	<ul style="list-style-type: none"> ・共通テスト対策演習を行う。 			
観 点 別 評 価	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
	効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータ活用について理解し、技能を身に付けているとともに、情報社会と人とのかかわりについて理解している。	事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。	情報社会とのかかわりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し、改善しようとしている。		
備 考	学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。				

教科	商業	科目	総合実践	単位数	2
学年	3年	類型	商業科		
教科書(出版社)	総合実践 一企業取引を学ぶー 三訂版(実教出版)				
副教材(出版社)					
授業の概要	<p>1 これまでに学習してきた各科目の内容が、実際のビジネス活動でどのように関連しているかを実践的に学習する。</p> <p>2 ビジネス活動に必要な知識・技術について、模擬実践を通して、一連の業務の中で体験的・一体的に学習する。</p>				
授業の目標	<p>1 ビジネスに必要な基本的な知識・技術・態度を総合的に身に付け、それらを実際に活用できるようにする。</p> <p>2 ビジネス社会の有機的な関連を実践的に理解し、その中で自分が担当する職務についての自覚を深める。</p>				
年間 学習 計画	学習内容(単元・項目)		学習目標		
	1 学期	<p>第1編 基礎編</p> <p>第1章 総合実践の学習</p> <p>第2章 ビジネスマナー</p> <p>第3章 ビジネス文書の作成</p> <p>第2編 実践編</p> <p>第1章 模擬取引の学習</p> <p>第2章 模擬取引</p> <p>1 卸売商の業務</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の目標と心得、学習方法を理解する。 ・社会人に必要となる基本的なマナーや応対時のマナー、電話応対について理解し、技術を身に付ける。 ・ビジネス文書の役割と重要性を理解し、基本的な作成技術を身に付ける。 ・卸売商の開始業務、経営計画、仕入業務、販売業務、月末・期末業務等に必要な知識・技術・態度を実践的な演習をとおして学習する。 		
	2 学期	<p>2 倉庫会社の業務</p> <p>3 保険会社の業務</p> <p>4 運送会社の業務</p> <p>5 銀行の業務</p> <p>6 管理部の業務</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各会社(倉庫・保険・運送・銀行・管理部等)の開始業務、日常業務、月末業務について理解し、実践的な演習をとおして技術を身に付ける。 ・期末業務等に必要な知識・技術・態度を実践的な演習をとおして学習する。 		
	3 学期	7 情報処理の業務	<ul style="list-style-type: none"> ・総合実践におけるコンピュータの利用について、知識と技術を身に付ける。 		
観点別 評価	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
	<p>記帳に必要な仕訳を理解し、諸帳簿・諸表の作成ができる。</p> <p>帳票作成に必要な個々の金額の計算方法を理解している。</p> <p>取引に関する証票に基づく起票、帳簿記入ができる。</p>	<p>会社の一員であるという意識を持ち、ビジネスマンとしてのマナー等に注意を払いながら行動することができる。</p> <p>取引の流れや諸帳簿の起票および会計処理を正しく理解している。</p>	<p>ビジネスの諸活動に関心を持ち、自ら考えて積極的に活動することができる。</p> <p>ビジネスに必要なマナーや知識を進んで習得しようとしている。</p>		
備考	<p>学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。</p>				

教科	商業	科目	財務会計Ⅱ	単位数	4
学年	3年	類型	商業科		
教科書(出版社)	財務会計Ⅱ (実教出版)				
副教材(出版社)	財務会計Ⅱ準拠問題集 (実教出版)				
授業の概要	財務会計について実務に即して体系的・系統的に学習する。企業会計に関連する法規や会計基準や会計処理の方法について学び、課題に対応できる知識や技術を身に付ける。国際的な会計基準を学ぶことにより、適切な会計情報の提供と効果的な活用する方法を習得する。				
授業の目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 財務会計に関する知識や技術を習得させ、経済社会において会計責任を果たすことの重要性について理解させる。 2 企業会計に関する法規や基準について学習し、会計的側面から企業の経営判断を分析する力を養う。 3 国際的な会計基準を踏まえた適切な会計情報の提供と効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。 				
年 間 学 習 計 画	学習内容(単元・項目)		学習目標		
	1 学期	1編 総論－財務会計の基本概念と会計基準 2編 各論 財務会計の実際 4章 資産会計 5章 負債会計 6章 純資産会計 7章 損益会計 8章 リース会計 9章 税効果会計 3編 企業活動の展開と財務会計 10章 外貨換算会計	<ul style="list-style-type: none"> ・資産負債アプローチと収益費用アプローチについて理解させる。 ・各資産の評価基準について意味を理解させ、評価方法を習得させる。 ・各負債の内容や会計処理について理解させる。 ・純資産の意味や内容を理解させ、会計処理を習得させる。株主資本等変動計算書を作成する目的およびその作成方法を理解させる。 ・「収益認識基準」について理解させ、その処理方法を習得させる。 ・ファイナンスリース取引の処理方法を習得させる。 ・法人税の概略を説明し、税効果会計の意味を理解させる。 ・外貨建取引の基本的な意味や内容を理解させ、会計処理を習熟させる。 		
	2 学期	11章 キャッシュ・フロー計算書 4編 企業結合の会計 12章 企業結合会計 13章 連結財務諸表の作成(1) 14章 連結財務諸表の作成(2) 15章 持分法 16章 連結税効果会計 5編 財務諸表の活用 17章 財務諸表の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・キャッシュ・フロー計算書の意義と必要性を理解させ、その作成方法を習得させる。 ・企業結合会計の意味を理解させ、特に吸収合併の会計処理について理解させる。 ・連結財務諸表の作成方法を習得させる。 ・持分法の基本的な意味や会計処理を理解させる。 ・連結税効果会計を適用した場合の会計処理について理解させる。 ・企業グループの経営状況や株価の判断材料について理解させる。 		
	3 学期	6編 監査と職業会計人 18章 監査と職業会計人	<ul style="list-style-type: none"> ・監査のプロセスと監査手続きや職業会計人の社会的役割と倫理について理解させる。 		
観 点 別 評 価	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
	財務会計の理論的な知識や技術に加えて、ビジネスのさまざまな場面で役立つ実務に即した知識と技術が身に付いている。	財務会計に関する理論に基づき、課題に対応する力、財務指標を組み合わせて企業の実態を分析する力、経営判断を分析する力が身に付いている。	会計責任を果たす一員として自己の役割や責任を認識し、他者と信頼関係を構築し、適切な会計処理を行う態度を身に付けている。		
備 考	学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。				